

スクランブリングと再構築化

斎藤 衛

1. 序

- ★ スクランブリングの基本的性質と Saito (2003) および Takita (2010) の分析
全再構築化、A/A' の性質、適正束縛現象

再構築化現象

- (1) a. [Which picture of himself]_i did John buy t_i
b. Which_x did John buy [x picture of himself]

照応形の循環的解釈

- (2) [Which picture of himself]_i does John think that Mary liked t_i

演算子の反再構築化現象

- (3) a. ??[Which picture of whom]_i does Bill wonder who bought t_i
b. Which_x does Bill wonder who_y y bought [x picture of whom]

- ★ Chomsky (1993) を出発点として、以上の現象を極小主義アプローチの下でどのように捉えることができるかを考える。

→ Quicoli (2008) による束縛理論のフェイズへの適用、連鎖の循環的解釈メカニズム

- ★ その結果をふまえて、Saito (2003) の分析に修正を加える。

2. 日本語スクランブリングの基本的性質

2.1. 適正束縛現象、全再構築化、A/A' の曖昧性

<適正束縛現象>

- (4) a. [TP 太郎が [CP 花子がソウルに住んでいると] 思っている] (こと)
b. [TP ソウルに_i [太郎が [CP 花子が t_i 住んでいると] 思っている]] (こと)
c. [TP [CP 花子がソウルに住んでいると]_j [太郎が t_j 思っている]] (こと)
- (5) a. [TP 太郎が [CP 花子がパリでその時計を買ったと] 思っている] (こと)
b. [TP その時計を_j [パリで_i [太郎が [CP 花子が t_i t_j 買ったと] 思っている]]] (こと)

(6) *_{[TP [CP 花子が t_i 住んでいると]_j [ソウルに $_i$ [太郎が t_j 思っている]] (こと)}

★ Saito (1985) : スクランプリングは、Move α の一例である。(3) は、Fiengo (1977) の適正束縛条件により説明される。

<全再構築化現象>

(7) a. _{[TP 太郎が [CP だれがその本を買ったか] 知りたがっている] (こと)}

b. *_{[TP だれが [CP 太郎がその本を買ったか] 知りたがっている] (こと)}

★ Harada (1972) : wh 句は、作用域とする CP に含まれていなければならない。

(8) a. _{[CP Who_i [_{TP} t_i asked whom [to find out [_{CP} what_j [_{TP} Bill bought t_j]]]]]}

b. _{[CP Who_i [_{TP} t_i asked Bill [to find out [_{CP} who_j [_{TP} t_j bought what]]]]]} (ambiguous, Baker 1970)

(9) a. _{[CP Who_i [_{TP} t_i wonders [_{CP} which picture of whom_j [_{TP} Bill bought t_j]]]]]}

(ambiguous, van Riemsdijk and Williams 1981)

b. ?? _{[CP Which picture of whom_j [does [_{TP} Bill wonder [_{CP} who_i [_{TP} t_i bought t_j]]]]]]]}

(10) a. _{[TP 太郎が [CP 花子がどの本を読んだか] 知りたがっている] (こと)}

b. _{[TP どの本を $_i$ [太郎が [CP 花子が t_i 読んだか] 知りたがっている]] (こと)}

(11) a. _{[TP 太郎が [CP みんなが [CP 花子がどの本を読んだと] 思っているか] 知りたがっている] (こと)}

b. ?_{[TP [CP 花子がどの本を読んだと]_j [太郎が [CP みんなが t_i 思っているか] 知りたがっている]] (こと)}

★ Saito (1989) : スクランプリングは、演算子 – 変項関係を形成しない A' 移動である。よって、全再構築化を適用しうる。(cf. Webelhuth 1989)

<A スクランプリング> (Mahajan 1990, Nemoto 1993, Tada 1993 他)

(12) a. _{[TP 彼らが [お互いの先生を] 批判した] (こと)}

b. ?*_{[TP [お互いの先生が] 彼らを 批判した] (こと)}

c. _{[TP 彼らを $_i$ [[お互いの先生が] t_i 批判した]] (こと)}

(13) a. ?*_{[TP [その $_i$ 著者が] どの本にも $_i$ けちをつけた] (こと)}

b. _{[TP どの本にも $_i$ [[その $_i$ 著者が] t_i けちをつけた]] (こと)}

(14) a. _{They_i seem to each other [t_i to be smart]}

b. _{Everyone_i seems to his/her_i mother [t_i to be smart]}

(15) ?*_{Who_i does his/her_i mother love t_i}

- (16) [TP 自分自身を_i [太郎が_{t_i} 責めた]] (こと)
- (17) a. *[TP [お互いの先生が] [CP 田中が彼らを批判したと] 言った] (こと)
 b. *[TP 彼らを_i [[お互いの先生が] [CP 田中が_{t_i} 批判したと] 言った]] (こと)
- (18) a. *[TP [その_i 著者が] [CP 花子がどの本にも_i けちをつけたと] 言った] (こと)
 b. ?*[TP どの本にも_i [[その_i 著者が] [CP 花子が_{t_i} けちをつけたと] 言った]] (こと)

★ Mahajan (1990) は、A と A' の二種類のスクランプリングがあるとし、前者が AGR 指定部への移動であるのに対して、後者は付加規則であるとの分析を提示する。Miyagawa (2001) は、Kuroda (1988) の分析を採用して、A スクランプリングの着点は TP 指定部であると提案する。

★ Saito (1992) は、Tada (1990) の考察に基づき、スクランプリングの着点は常に TP の上位指定部であり、CP の境界を越えるスクランプリングの特異な性質は、全再構築化の義務的な適用から導かれることを主張する。

2.2. Saito (2003) による連鎖の循環的解釈に基づく分析

<全再構築化のメカニズム>

★ 移動のコピー+削除分析 (Chomsky 1993)

- (19) a. *[Whose_i brother]_j did he_i see t_j
 b. [whose brother] did he see [whose brother]
 c. [~~whose brother~~] did he see [~~whose brother~~] (= x's brother)
- (20) a. Who_i did John see t_i
 b.

who		did John see who
↓		↓
[for which x: x a person] did John see x		
- (21) a.

who		did John see		who
{D, π, Op, arg}				{D, π, Op, arg}

 b.

who		did John see		who
{D, π, Op, arg }				{D, π, Op , arg}
- (22) a. 範疇素性はすべての位置で解釈される。
 b. 音声素性は着点で解釈される。(顕在的移動の場合、cf. Bobaljik 1995)
 c. 他の素性は、適切に解釈される位置で保持される。

★ 連鎖の循環的解釈 (phase = CP と仮定する)

(23) Who do you think John saw

(24) a. $[\text{CP who } [\text{TP John saw who }]] \rightarrow [\text{TP John saw x}]$
 $\{D, \pi, \text{Op}, \text{arg}\} \quad \quad \quad \{D, \pi, \Theta\text{p}, \text{arg}\}$

b. $[\text{CP who } [\text{do } [\text{TP you think } [\text{CP who } [\text{TP John saw x }]]]]] \rightarrow [\text{TP you think } [\text{CP } [\text{TP John saw x }]]]$
 $\{D, \pi, \text{Op}\} \quad \quad \quad \{D, \pi, \Theta\text{p}\}$

c. $\rightarrow [\text{CP for which x: x a person } [\text{TP you think } [\text{CP } [\text{TP John saw x }]]]]$

★ スクランブリングの全再構築化

(25) a. $[\text{TP その本を } _i [\text{山田が } t_i \text{ 読んだ}]]$ (こと)

b. $[\text{TP その本を } [\text{山田が その本を 読んだ}]]$
 $\{D, \pi, \text{arg}\} \quad \quad \quad \{D, \pi, \text{arg}\}$

(26) a. $[\text{TP その本を } _i [\text{田中が } [\text{CP 山田が } t_i \text{ 読んだと}] \text{ 思っている}]]$ (こと)

b. $[\text{CP その本を } [\text{TP 山田が その本を 読んだ}] \text{ と}] \rightarrow [\text{TP 山田が その本を 読んだ}]$
 $\{D, \pi, \text{arg}\} \quad \quad \quad \{D, \pi, \text{arg}\}$

c. $[\text{TP その本を } [\text{田中が } [\text{CP その本を } [\text{TP 山田が その本を 読んだ}] \text{ と}] \text{ 思っている}]]$
 $\{D, \pi\} \quad \quad \quad \{D, \pi\}$

★ スクランブリングが形成する連鎖は、PF 移動とほぼ同様のものである。(全再構築化) (26c) が示すように、CP からの取り出しは、音声素性の移動となる。

<A スクランブリング vs. A' スクランブリング>

(27) a. $[\text{TP 彼らを } _i [[\text{お互いの先生が}] t_i \text{ 批判した}]]$ (こと) (= (9c))

b. $[\text{TP 彼らを } [[\text{お互いの先生が}] \text{ 彼らを 批判した}]]$
 $\{D, \pi, \text{arg}\} \quad \quad \quad \{D, \pi, \text{arg}\}$

(28) a. $*[\text{TP 彼らを } _i [[\text{お互いの先生が}] [\text{CP 田中が } t_i \text{ 批判したと}] \text{ 言った}]]$ (こと) (= (14b))

b. $[\text{CP 彼らを } [\text{TP 田中が 彼らを 批判した}] \text{ と}]$
 $\{D, \pi, \text{arg}\} \quad \quad \quad \{D, \pi, \text{arg}\}$

c. $[\text{TP 彼らを } [[\text{お互いの先生が}] [\text{CP 彼らを } [\text{TP 田中が 彼らを 批判した}] \text{ と}] \text{ 言った}]]$
 $\{D, \pi\} \quad \quad \quad \{D, \pi\}$

★ (27a) と (28a) の差異は、束縛原理 (A) が派生のどの段階でも適用しうる認可条件 (anywhere condition) であるとする Belletti and Rizzi (1988) の提案を支持するものである。

(29) a. Pictures of himself worry John

b. $[\text{TP } [\text{Pictures of himself}]_j [\text{VP } [\text{V worry } t_j] \text{ John}]_i]$

★ 以下の例は、束縛原理 (C) が LF 表示に適用されることを示す。

- (30) [The claim that John_i was asleep]_j seemed to him_i [t_j to be correct] (Chomsky 1993)
- (31) a. [TP 自分自身を_i [太郎が t_i 責めた]] (こと)
 b. [TP お互いを_i [[太郎と花子が t_i 責めた]] (こと)
- (32) a. スクランブリングの着点は、A 位置である。
 b. 束縛原理 (A) は認可条件であり、束縛原理 (C) は LF で適用される。(cf. Lebeaux 1988)
- (33) a. John_i was praised t_i
 b. John was praised John
 {D, π, arg} {D, π, arg} ... なぜか疑問が残る。

2.3. Takita (2010) による適正束縛現象の PF 分析

- (34) *[TP [CP 花子が t_i 住んでいると]_j [ソウルに_i [太郎が t_j 思っている]] (こと) (= (3))
- (35) a. [TP 花子が [vp 太郎に [PRO ソウルまで行くこと] を命じた]]
 b. [TP [PRO ソウルまで行くこと]_i が [vp 太郎に t_i 命じられた]]
- (36) a. [TP 花子が [vp ソウルまで_i [太郎に [PRO t_i 行くこと] を命じた]]]
 b. *[TP [PRO t_i 行くこと]_j が [vp ソウルまで_i [太郎に t_j 命じられた]]]

<Fox and Pesetsky (2005) の線状化理論と Ko (2007) による遊離数量詞の分析>

★ スクランブリングを支持する黒田 (1980) の議論

- (37) a. 学生が 3 人 酒を 飲んだ
 b. 学生が 酒を 3 本 飲んだ
 c. ??学生が 酒を 3 人 飲んだ
- (38) a. 酒を 学生が 3 本 飲んだ
 b. [TP 酒を_i [学生が [vp t_i 3 本 飲んだ]]]

★ しかし、(37c) の構造として、(39a-b) を排除しなければならない。

- (39) a. [TP 学生が_j [酒を_i [t_j 3 人 [vp t_j [vp t_i 飲んだ]]]]]
 b. [TP 学生が_j [vp 酒を_i [t_j 3 人 [vp t_i 飲んだ]]]]]

★ Spell-out の領域において語順を決定する。Ko (2007) : 日韓語では、spell-out 領域が vP を含む。

- (40) a. [_{VP} 学生が 3 人 [_{VP} 酒を飲んだ]] ... 学生が < 3 人 < 酒を
 b. [_{VP} 酒を_i [学生が 3 人 [_{VP} t_i 飲んだ]]] ... 酒を < 学生 < 3 人
 c. *学生 < 酒を < 3 人

< Takita (2010) の適正束縛現象の分析 >

- (41) a. *_{[TP [CP 花子が t_i 住んでいると]_j [ソウルに_i [太郎が t_j 思っている]] (こと) (= (43))}
- b. [_{CP} ソウルに_i [花子が t_i 住んでいる]]
- c. ソウルに < 住んでいる
- (42) a. *_{[TP [PRO t_i 行く こと]_j が [_{VP} ソウルまで_i [太郎に t_j 命じられた]]] (= (45b))}
- b. [_{CP} ソウルまで_i [PRO t_i 行く]]
- c. ソウルまで < 行く

★ (43) を含め、他にスクランブリングに関する多くの対比が説明されることを示す。

- (43) a. 太郎が みんなに [_{CP} 花子はその本を持っていると] 伝えた (こと)
- b. ??太郎が その本を_i みんなに [_{CP} 花子が t_i 持っていると] 伝えた (こと)
- c. その本を_i 太郎が みんなに [_{CP} 花子が t_i 持っていると] 伝えた (こと)

- (44) [_{VP} その本を [太郎が [_{VP} みんなに [_{CP} その本を < 太郎が

< PF 分析を支持するさらなる証拠 >

★ 線状化の問題であれば、適正束縛条件に抵触する (45) の構造が許容される可能性がある。

- (45) [_{CP} ... [_{VP} ... [_{VP} t_i V] ...] ...]_j [... [_{CP} Op_i [_{TP} ... t_j ...] ...]]
- (46) a. [_{CP} [_{TP} 太郎が [_{CP} 泥棒が e_i 現金を盗んだと] 言った] の] は、その銀行から_i だ
- b. [_{CP} [_{TP} [_{DP} [_{TP} e_i 現金を盗んだ] 泥棒] が昨日逮捕された] の] は、その銀行 (*から)_i だ
- (47) [_{CP} Op_i [_{TP} ... t_i ...]] の] は XP_i だ (Hoji 1990, Murasugi 1991)
- (48) a. 太郎は [_{TP} みんなが [_{CP} 花子が e_i 読んだと] 思っている] よりも 多くの本を読んだ
- b. *太郎は [_{TP} 花子が [_{DP} [_{TP} e_i 読んだ] 人] を知っている] よりも 多くの本を読んだ
- (49) [_{CP} Op_i [_{TP} ... t_i ...]] よりも (Kikuchi 1987, Ishii 1991)
- (50) a. [_{TP} 太郎は [_{CP} [_{CP} Op_i [_{TP} みんなが [_{CP} 花子が t_i 行ったと] 思っている] の] は ソウルへだと] 報告した]
- b. ?_{[TP [CP 花子が t_i 行ったと]_j [太郎は [_{CP} [_{CP} Op_i [_{TP} みんなが t_j 思っている] の] は ソウルへだと] 報告した]]}

- (51) a. [TP 太郎は [CP Op_i [TP みんなが [CP 花子が t_i 読んだと] 思っている]] よりも 多くの本を
読んだ] (= (48a))
- b. ?[TP [CP 花子が t_i 読んだと]_j] [太郎は [CP Op_i [TP みんなが t_j 思っている]] よりも 多くの本を
読んだ]]

★ (50b)、(51b) は、全再構築化を支持するさらなる証拠ともなる。

2.4. 残された諸問題

<再構築化と wh 解釈>

- (52) a. [CP Who_i [TP t_i wonders [CP which picture of whom_j [TP Bill bought t_j]]]] (= (6))
(ambiguous, van Riemsdijk and Williams 1981)
- b. ??[CP Which picture of whom_j [does [TP Bill wonder [CP who_i [TP t_i bought t_j]]]]]
- (53) a. [TP 太郎が [CP 花子がどの本を読んだか] 知りたがっている] (こと) (= (7))
- b. [TP どの本を _i] [太郎が [CP 花子が t_i 読んだか] 知りたがっている] (こと)

★ wh 句は、LF において、作用域とする CP に含まれていなければならない。

- (54) a. ??[Which picture of himself] does Mary wonder whether Bill bought
- b. Which_x does Mary wonder whether Bill bought [x picture of himself]
- (55) a. ??[CP Which picture of whom_j [does [TP Bill wonder [CP who_i [TP t_i bought t_j]]]]] (= (32b))
- b. Which_x does Bill wonder who_y y bought [x picture of whom]

<VP 縁部へのスクランプリング>

- (56) a. [TP 彼らを _i] [[お互いの先生が] t_i 批判した] (こと) (= (27))
- b. [TP 彼らを] [[お互いの先生が] 彼らを 批判した]
{D, π, arg} {D, π, arg}
- (57) [TP {D, π, arg} ... [VP {D, π, arg} V]]
- (58) a. [VP {D, π, arg} ... [VP {D, π, arg} V]]
- b. [TP {D, π} ... [VP {D, π} ... [VP {D, arg} V]]]

★ VP/vP 縁部へのスクランプリングは、NP 移動 (純粋な A 移動) である。
(Mahajan 1990, Tada 1993, Nemoto 1993)

- (59) a. ?*[_{TP} 花子が [[お互いの両親に] [太郎と次郎を] 紹介した]] (こと)
 b. [_{TP} 花子が [[太郎と次郎を]_i [[お互いの両親に] _{t_i} 紹介した]]] (こと)

- (60) a. [_{TP} 花子が [[太郎と次郎に] お互いを 紹介した]] (こと)
 b. *[_{TP} 花子が [お互いを_i [[太郎と次郎に] _{t_i} 紹介した]]] (こと)
 c. *[_{TP} お互いを_i [花子が [_{VP} _{t'_i} [[太郎と次郎に] _{t_i} 紹介した]]]]] (こと)

- (61) a. [_{VP} {D, π, arg} ... [_{VP} {D, π, arg} V]]
 b. [_{TP} {D, π, arg} ... [_{VP} {D, π, arg} ... [_{VP} {D} V]]]

★ 従って記述的な問題はないが、ある意味で、 νP 縁部へのスクランブリングは、スクランブリングではないことになる。では、どういう現象なのか。

<束縛原理 (A) の定式化>

★ 極小主義アプローチの下での解釈メカニズムとしての束縛原理 (Chomsky 1993)

- (62) a. If α is an anaphor, interpret it as coreferential with a c-commanding phrase in D.
 b. If α is a pronominal, interpret it as disjoint from every c-commanding phrase in D.
 c. If α is an r-expression, interpret it as disjoint from every c-commanding phrase.

★ 派生に適用される照応形認可の統語原理を維持することができない。

3. 連鎖解釈メカニズムの再考

<再構築化現象>

- (63) a. *Which picture of John_i did he_i buy
 b. Which picture of himself does John think that Bill bought
- (64) a. 太郎が_i [_{CP} 花子が_j [_{CP} 次郎が_k 自分自身を_{i*,j*,k} 批判したと] 言ったと] 思っている (こと)
 b. 太郎が_i [_{CP} 花子が_j [_{CP} 自分自身を_{i*,j,k} 次郎が_k _t 批判したと] 言ったと] 思っている (こと)
 c. 太郎が_i [_{CP} 自分自身を_{i,j,k} 花子が_j [_{CP} 次郎が_k _t 批判したと] 言ったと] 思っている (こと)
 (Dejima 1999)

3.1. Chomsky (1993) の束縛理論

<LF 表示に係る原理としての束縛条件>

★ 移動のコピー + 削除分析

- (65) a. Which picture of John did Mary buy
 b. Which_x did Mary buy [x picture of John]
- (66) a. [Which picture of Mary] John bought [which picture of Mary]
 b. [Which [*t* picture of Mary]] John bought [which [*t* picture of Mary]]
 c. [Which [~~*t* picture of Mary~~]] John bought [~~which~~ [*t* picture of Mary]]
- (67) a. Which picture of himself did John buy
 b. *Which picture of John_i did he_i buy
- (68) a. [Which [~~*t* picture of himself~~]] John bought [~~which~~ [*t* picture of himself]]
 b. [Which [~~*t* picture of John_i~~]] he_i bought [~~which~~ [*t* picture of John_i]]

★ 再帰代名詞の移動分析

- (69) a. Which picture of himself does John think that Mary bought
 b. [Which [~~*t* picture of himself~~]] John thinks [_{CP} [~~which~~ [~~*t* picture of himself~~]] that Mary bought [~~which~~ [*t* picture of himself]]]
- (70) a. [Which picture of himself] John thinks [_{CP} [which picture of himself] that Mary bought [which picture of himself]]
 b. [Which picture of himself] John-himself_i thinks [_{CP} [which picture of himself_i] that Mary bought [which picture of himself]]
 c. [Which [~~*t* picture of himself~~]] John-himself_i thinks [_{CP} [~~which~~ [*t* picture of himself_i]] that Mary bought [~~which~~ [*t* picture of himself]]]
 d. [Which [~~*t* picture of himself~~]] John-himself_i thinks [_{CP} [~~which~~ [*t* picture of himself_i]]_j that Mary bought *t_j*]

★ 削除は、不適格な連鎖を創出しない限りにおいて、適用される。

<日本語分析から生じる問題点>

- (71) a. 太郎が_i [_{CP} 自分自身を_i 花子が *t* 批判したと] 言った (こと)
 b. 太郎が-自分自身_i [_{CP} 自分自身_i [花子が 自分自身を 批判したと]] 言った

★ 数量詞の再構築化

- (72) だれかが 2冊の本を 借り出した (∃ > 2)
- (73) a. 2冊の本を_i だれかが *t_i* 借り出した (∃ > 2, 2 > ∃) (Kuroda 1971)
 b. 何かを_i 2人の人が *t_i* 買った (2 > ∃, ∃ > 2)

- (74) a. だれかが [CP 花子が 2冊の本を 借り出したと] 言った (∃ > 2)
 b. 2冊の本を_i だれかが [CP 花子が _{t_i} 借り出したと] 言った (∃ > 2) (Oka 1990)
- (75) 太郎が_i [CP 自分自身_i の 2冊の本を_j だれかが [CP 花子が _{t_j} 借り出したと] 言ったと] 思っている (こと) (∃ > 2)

★ (71)、(75) は、照応形の解釈が派生的 (循環的) になされることを示唆する。→ フェイズ理論

3.2. Quicoli (2008) の循環的束縛理論と連鎖の解釈

★ フェイズと束縛理論 ... Lee-Schoenfeld (2008), Quicoli (2008), Charnavel and Sportiche (2013)

- (76) a. John recommends himself [VP John [VP recommends himself]]
 b. *John_i recommends him_i [VP John [VP recommends him]]

★ Transfer に言及して、Quicoli の提案を以下のように言い換えることができる。

- (77) a. 照応形 α については、Transfer が適用される時点で、 α を c 統御する DP と同一指示であるという情報を C-I 部門に送ることができる。
 b. 代名詞 α は、Transfer が適用される時点で、 α を c 統御するすべての DP と非同一指示であるという情報が C-I 部門に送られる。
 c. 束縛原理 (C) : DP α は、Transfer が適用される時点で、Transfer 領域内において、 α がすべてのコピーを c 統御する指示表現とは非同一指示であるという情報が C-I 部門に送られる。

- (78) a. *[CP Which picture of John_i did [TP he_i like (which picture of John_i)]]
 b. [TP The picture of John_i seemed to him_i [TP (the picture of John_i) to be attractive]]

★ Quicoli による (79) の分析

- (79) Which picture of himself does John think that Mary bought

- (80) a. [VP [which picture of himself] [Mary [VP buy [which picture of himself]]]]
 b. [VP [which picture of himself] [John_i [VP think [CP [which picture of himself]_i] [TP ...

<Chomsky (1993) の連鎖解釈再考>

- (81) a. [Which [~~t picture of himself~~] John bought [which [~~t picture of himself~~]]] (= (68))
 b. [Which [~~t picture of John_i~~] he_i bought [which [~~t picture of John_i~~]]]

- (82) a. 項は、 θ 位置においてのみ解釈される。
 b. 演算子は、その基準位置 (criterial position) においてのみ解釈される。

- (83) a. [_{VP} [which [_t picture of himself]] [Mary [_{VP} buy [which [_t picture of himself]]]]]
 b. [_{VP} [which [_t picture of himself]] [Mary [_{VP} buy [which [_t picture of himself]]]]]
 c. [_{CP} [which [_t picture of himself]] [_{TP} Mary [_{VP} [which [_t picture of himself]]] [Mary [_v v [_{VP} ...]]]]]
 d. [_{VP} [which [_t picture of himself]] [John_i [_{VP} think [_{CP} [which [_t picture of himself]]] [_{TP} ...]]]]]
 e. [_{CP} [which [_t picture of himself]] [_{TP} John [_{VP} [which [_t picture of himself]]] [John [_v v [_{VP} ...]]]]]
- (84) [_{CP} [which [_t picture of himself]] [_{TP} .. [_{CP} .. [_{TP} .. [_{VP} buy [which [_t picture of himself]]]]]]]]]

<スクランブリングへの適用>

- (85) 太郎が_i [_{CP} 自分自身を_i 花子が_t 批判したと] 言った (こと) (= (68a))
- (86) a. [_{VP} 自分自身を [花子が [_v [_{VP} 自分自身を 批判した] v]]]
 b. [_{CP} 自分自身を [_{TP} 花子が [_v 自分自身を [花子が [_v [_{VP} ...] v] ...]]]]]
 c. [_{VP} 太郎が [_v [_{VP} [_{CP} 自分自身を [_{TP} ...]] 言った] v]]]
- (87) [_{TP} どの本を_i [太郎が [_{CP} 花子が_{t_i} 読んだか] 知りたがっている]] (こと) (= (7b))
- (88) a. [_{VP} [どの [_t 本]] を [花子が [_v [_{VP} [どの [_t 本]] を 読んだ] v]]]
 b. [_{CP} [どの [_t 本]] を [_C [_{TP} 花子が [_v [どの [_t 本]] を [花子が [_v [_{VP} ...] v]]] か]]]
 c. [_{VP} [どの [_t 本]] を [太郎が [_v [_{VP} [_{CP} [どの [_t 本]] を [_C [_{TP} ...] か] 知りたがっている] v]]]]]
 d. [_{CP} [どの [_t 本]] を [_{TP} 太郎が [_v [どの [_t 本]] を [太郎が [_v [_{VP} ...] v]]]]]]]

<英語 wh 句の反再構築化現象>

- (89) a. ??[Which picture of whom]_i does John wonder who_j _{t_j} bought _{t_i} (= (9b))
 b. Which_i John wonders who_j _{t_j} bought [_{t_i} picture of whom]
- (90) a. *[Which picture of _{t_i}]_j does John wonder who_i Mary liked _{t_j}
 (適正束縛の問題か? cf. Takita 2010)
 b. Which_j John wonders who_i Mary liked [_{t_j} picture of _{t_i}]
- (91) a. [_{VP} [whom_i [which_j [_{t_j} picture of _{t_i}]]] [who [_v [_{VP} bought [whom_i [which_j [_{t_j} picture of _{t_i}]]]]]]]]]
 ((89a) の補文 vP)
 b. [_{CP} [whom_i [which_j [_{t_j} picture of _{t_i}]]] [_{TP} John [_v [whom_i [which_j [_{t_j} picture of _{t_i}]]] [John [_v [_{VP} ...]]]]]]]
 ((89a) の主文 CP)

★ 従って、*whom* は主文を作用域とする。非頭在的 wh 移動が *whom* に適用されるとすると、多少異なる分析が必要になる。

(101) a. * $[_{TP}$ 彼らを_i [[お互いの先生が] $[_{CP}$ 田中が t_i 批判したと] 言った]] (こと) (= (28))

b. $[_{CP}$ 彼らを $[_{TP}$ 田中が 彼らを 批判した] と]
 $\{D, \pi, \text{arg}\}$ $\{D, \pi, \text{arg}\}$

c. $[_{TP}$ 彼らを [[お互いの先生が] $[_{CP}$ 彼らを $[_{TP}$ 田中が彼らを批判した] と] 言った]]
 $\{D, \pi\}$ $\{D, \pi\}$

(102) a. $[_{CP}$ 彼らを $[_{TP}$ 田中が 彼らを 批判した] と]
 $\{D, \pi, \text{arg}\}$ $\{D, \pi, \text{arg}\}$

b. $[_{TP}$ 彼らを [[お互いの先生が] $[_{CP}$ 彼らを $[_{TP}$ 田中が彼らを批判した] と] 言った]]
 $\{D, \pi, \text{arg}\}$ $\{D, \pi, \text{arg}\}$

★ (101a) の非文法性については、代案を考えなければならない。

(103) a. $[_{TP}$ 彼らを_i [[お互いの先生が] t_i 批判した]] (こと) (= (56))

b. $[_{TP}$ 彼らを [[お互いの先生が] 彼らを 批判した]]
 $\{D, \pi, \text{arg}\}$ $\{D, \pi, \text{arg}\}$

(104) a. $[_{VP}$ 彼らを [[お互いの先生が $[_{VP}$ 彼らを 批判した]]]]
 $\{D, \pi, \text{arg}\}$ $\{D, \pi, \text{arg}\}$

b. $[_{TP}$ 彼らを [[お互いの先生が $[_{VP}$ 彼らを [[お互いの先生が] $[_{VP}$...
 $\{D, \pi, \text{arg}\}$ $\{D, \pi, \text{arg}\}$

★ νP 縁部へのスクランブリングについては、部分的な解決が得られる。

(105) 太郎が_i $[_{CP}$ 自分自身を_i 花子が t_i 批判したと] 言った (こと) (= (85))

(106) a. TP と併合 ... A スクランブリング

b. CP と併合 ... A' スクランブリング (Saito 2010)

★ (102b) の移動は、非適正移動 (improper movement) として排除される。最終着点は、CP との併合位置 (A' 位置) でなければならない。

<Miyagawa (2001) による主語と否定の作用域に関する考察>

(107) a. 全員がそのテストを受けなかった (よ / と思う)

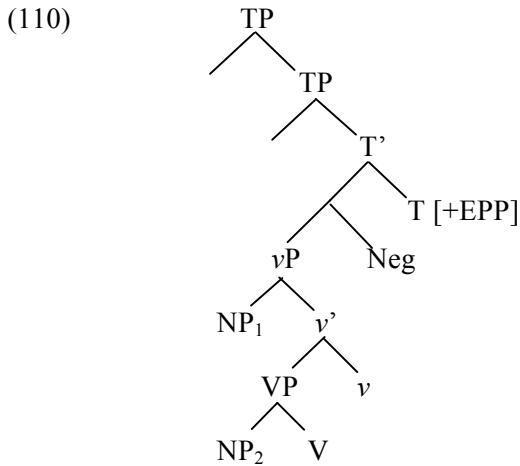
($\forall > \text{not}$, * $\text{not} > \forall$)

b. そのテストを_i 全員が t_i 受けなかった (よ / と思う)

($\forall > \text{not}$, $\text{not} > \forall$)

(108) 宿題を_i 全員が [CP 先生が _{t_i} 出すと] 思わなかった (よ)
 (∀ > not, *not > ∀)

- (109) a. [TP subject_i [T' [NegP [Neg' [vP _{t_i} [v' [VP object V] v]]] Neg]] T]]
 b. [TP object_i [T' [NegP [Neg' [vP subject [v' [VP _{t_i} V] v]]] Neg]] T]]
 c. [TP object_j [TP subject_i [T' [NegP [Neg' [vP _{t_i} [v' [VP _{t_j} V] v]]] Neg]] T]]]



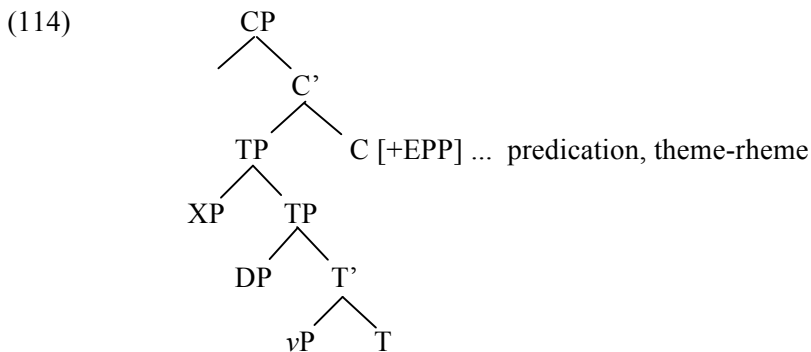
<分析に関する疑問点>

(111) Everyone didn't take the exam (∀ > not, not > ∀)

- (112) a. 花子が_i 太郎を_j 自分の_{i,*j} 部屋で 叱った
 b. 太郎を_j [花子が_i _{t_j} 自分の_{i,*j} 部屋で 叱った]

- (113) a. 全員が 自分自身に投票しなかった (と思う)
 (∀ > not, *not > ∀)
 b. 自分自身に_i [全員が _{t_i} 投票しなかった] (と思う)
 (∀ > not, not > ∀)

<Saito 2010 の微修正>



(115) Force - Topic* - Focus - Topic* - Finite - Subject - T (Cardinaletti 2004)

- (116) a. 太郎が_i [CP 花子が_j 自分自身を_{i*,j} 推薦したと] 言った (こと)
 b. 太郎が_i [CP 自分自身が_i 花子を 推薦したと] 言った (こと) (Yang 1983)

★ (116b) の「自分自身」は CP (SubjectP) 指定部にあるものとして分析できる。

- (117) 太郎が_i [CP 花子を_j 自分自身が_i t_j 推薦したと] 言った (こと)

★ 新たな諸問題：(i) A vs. A' 位置、(ii) (105) の分析と EPP の位置付け

- (118) a. { α , CP} ... A' 位置、{ α , TP} ... A 位置
 b. { α , vP} ... A または A' 位置 (連鎖 ... A-A、A'-A' という一様な連鎖が好まれる。)

4. まとめ

★ スクランプリングに係る中心的な現象

全再構築化、A/A' の曖昧性、適正束縛現象

Saito (2003), Takita (2010) による分析

★ Saito (2003) の諸問題

束縛原理 (A) の定式化 ... 派生に適用される認可条件ではありえない。

英語 wh 句の反再構築化現象

vP 縁部へのスクランプリング

★ 束縛原理の再検討

Chomsky (1993) において生じる問題点

循環的解釈と束縛原理 (Quicoli 2008)

連鎖の循環的解釈による英語 wh 句反再構築化現象の説明

スクランプリングに見られる A/A' の曖昧性の捉え直し

参照文献

- Abels, Klaus (2003) *Successive Cyclicity, Anti-Locality, and Adposition Stranding*, Ph.D. dissertation, University of Connecticut.
- Baker, C. L. (1970) "Notes on the Description of English Questions: The Role of an Abstract Question Morpheme," *Foundations of Language* 6: 197-219.
- Belletti, Adriana and Luigi Rizzi (1988) "Psych-Verbs and θ -Theory," *Natural Language and Linguistic Theory* 6: 291-352.
- Bobaljik, Jonathan D. (1995) *Morphosyntax: The Syntax of Verbal Inflection*, Ph.D. dissertation, MIT.
- Cardinaletti, Ana (2004) "Toward a Cartography of Subject Positions," in Luigi Rizzi, ed., *The Structure of CP and IP: The Cartography of Syntactic Structures Volume 2*, Oxford University Press, Oxford,

115-165.

- Charnavel, Isabelle and Dominique Sportiche (2013) "Anaphor Binding Domain," Unpublished manuscript, Harvard University and UCLA.
- Chomsky, Noam (1993) "A Minimalist Program for Linguistic Theory," in Kenneth Hale and Samuel Jay Keyser, eds., *The View from Building 20: Essays in Linguistics in Honor of Sylvain Bromberger*, 1-52, MIT Press, Cambridge, Mass.
- Chomsky, Noam and Howard Lasnik (1993) "The Theory of Principles and Parameters," in Joachim Jacobs, et al., eds., *Syntax: An International Handbook of Contemporary Research*, 506-569, Walter de Gruyter, Berlin.
- Dejima, Mayumi (1999) *A Study on Remnant-Scrambled Sentences in Japanese and their LF Representations*, M.A. thesis, Nanzan University.
- Fiengo, Robert (1977) "On Trace Theory," *Linguistic Inquiry* 8: 35-61.
- Fox, Danny and David Pesetsky (2005) "Cyclic Linearization of Syntactic Structure," *Theoretical Linguistics* 31: 1-45.
- Harada, Kazuko (1972) "Constraints on WH-Q Binding," *Studies in Descriptive and Applied Linguistics* 5: 180-206.
- Hoji, Hajime (1990) *Theories of Anaphora and Aspects of Japanese Syntax*, Unpublished manuscript, USC.
- Ishii, Yasuo (1991) *Operators and Empty Categories in Japanese*, Ph.D. dissertation, University of Connecticut.
- Kikuchi, Akira (1986) "Comparative Deletion in Japanese," Unpublished manuscript, Yamagata University.
- Kitahara, Hisatsugu (1997) *Elementary Operations and Optimal Derivations*, MIT Press, Cambridge, Mass.
- Ko, Hee-Jeong (2007) "Asymmetries in Scrambling and Cyclic Linearization," *Linguistic Inquiry* 38: 49-83.
- Kuroda, S.-Y. (1971) "Remarks on the Notion of Subject with Reference to Words like *Also*, *Even*, or *Only* (Part II)," *Annual Bulletin* 4: 127-152, Research Institute of Logopedics and Phoniatics, University of Tokyo.
- 黒田茂幸 (1980) 「文構造の比較」、國廣哲彌編『日英語比較講座 2 : 文法』、大修館、東京、23-61.
- Kuroda, S.-Y. (1988) "Whether We Agree or Not: A Comparative Syntax of English and Japanese," *Linguisticae Investigationes* 12: 1-47.
- Lebeaux, David (1988) *Language Acquisition and the Form of the Grammar*, Ph.D. dissertation, University of Massachusetts, Amherst.
- Lee-Schoenfeld, Vera (2008) "Binding, Phases, and Locality," *Syntax* 11: 281-298.
- Mahajan, Anoop K. (1990) *The A/A-Bar Distinction and Movement Theory*, Ph.D. dissertation, MIT.
- Miyagawa, Shigeru (2001) "The EPP, Scrambling, and Wh-in-situ," in Michael Kenstowicz, ed., *Ken Hale: A Life in Language*, 293-338, MIT Press, Cambridge, Mass.
- Müller, Gereon (1996) "A Constraint on Remnant Movement," *Natural Language and Linguistic Theory* 14: 355-407.
- Murasugi, Keiko (1991) *Noun Phrases in Japanese and English: A Study in Syntax, Acquisition and Learnability*, Ph.D. dissertation, University of Connecticut.
- 中村捷 (1996) 『束縛関係』、ひつじ書房、東京。
- Nemoto, Naoko (1993) *Chains and Case Positions: A Study from Scrambling in Japanese*, Ph.D. dissertation, University of Connecticut.
- Oka, Toshifusa (1990) "On the Spec of IP," Unpublished manuscript, MIT.

- Quicoli, A. Carlos (2008) "Anaphora by Phase," *Syntax* 11: 299-329.
- Riemsdijk, Henk van and Edwin Williams (1981) "NP-Structure," *The Linguistic Review* 1: 171-217.
- Saito, Mamoru (1985) *Some Asymmetries in Japanese and their Theoretical Implications*, Ph.D. dissertation, MIT.
- Saito, Mamoru (1989) "Scrambling as Semantically Vacuous A'-Movement," in Mark R. Baltin and Anthony S. Kroch, eds., *Alternative Conceptions of Phrase Structure*, 182-200, University of Chicago Press, Chicago.
- Saito, Mamoru (1992) "Long Distance Scrambling in Japanese," *Journal of East Asian Linguistics* 1, 69-118.
- Saito, Mamoru (2003) "A Derivational Approach to the Interpretation of Scrambling Chains," *Lingua* 113: 481-518.
- Saito, Mamoru (2010) "Semantic and Discourse Interpretation of the Japanese Left Periphery," in Nomi Erteschik-Shir and Lisa Rochman, eds., *The Sound Patterns of Syntax*, Oxford University Press, Oxford, 140-173. (2010)
- Tada, Hiriaki (1990) "Scrambling(s)," ms., MIT.
- Tada, Hiroaki (1993) *A/A-bar Partition in Derivation*, Ph.D. dissertation, MIT.
- Takita, Kensuke (2010) *Cyclic Linearization and Constraints on Movement and Ellipsis*, Ph.D. dissertation, Nanzan University.
- Webelhuth, Gert (1989) *Syntactic Saturation Phenomena and the Modern Germanic Languages*, Ph.D. dissertation, University of Massachusetts, Amherst.
- Yang, Dong-Whee (1983) "The Extended Binding Theory of Anaphors," *Language Research* 19: 169-192.